

# ドラゴンリバー交流会の マイ・タイムライン普及活動

行政と地区住民とのパイプ役  
~逃げ遅れゼロを目指して~

特定非営利活動法人ドラゴンリバー交流会

高嶋 了一

# ドラゴンリバー交流会

設立 平成7年8月

今年で通算26年目

特定非営利活動法人の認定

平成14年3月

近畿地方整備局河川協力団体の指定

平成26年3月

第23回 日本水大賞 国土交通大臣賞の受賞

令和3年5月

## マイ・タイムラインを取り組むきっかけ

近年、異常気象により各地で大災害が発生。避難しない人が多い。

その理由としては

1. 「過去に被災したことがない。自分のところは大丈夫」という過去の経験。
2. 避難所に行っても高齢者はトイレの問題がある。
3. 赤ちゃんの泣き声で周囲に迷惑をかけられない。
4. 最近、増えているのがペットがいるから。



## 平成16年7月の「福井豪雨」でも

避難指示が出てから商売用のパソコンなど、大事なものを2階に上げ始め、避難は出来なかったという話を聞きました。多くの方々が避難しなかった。

## 何か良い方法はないものかと思っていた時に

友人の東京大学大学院客員教授・松尾一郎氏から「タイムライン」という災害発生時の行動を時系列に取りまとめた行動計画を紹介された。

- 福井で住民への講演会を開催したいと、福井河川国道事務所に相談。
- 事務所長から、関東の下館河川事務所が平成27年9月豪雨で被災した鬼怒川流域住民の方々と「逃げ遅れゼロ」を目指した「マイ・タイムライン」という新しい手法に取り組んでいる事を教えて頂いた。
- 下館河川事務所の方を講師として派遣して頂き、講演会を開催。
- これが、取り組む出発点となりました。

# 福井市で最初のマイ・タイムライン講演会開催 (平成29年12月17日 90名参加)



講演会や検討会の開催にあたって、行政とドラゴンリバー交流会との役割分担は、行政の方々は出前講座で講師を担当し、交流会は地区への説明・事前調整を行っています。交流会は行政と地区住民とのパイプ役として頑張っています。



# 福井市新種池地区・舞屋地区における マイ・タイムライン検討会



新種池地区（平成30年2月18日）42名参加



舞屋地区（平成30年4月22日）47名参加

行政の方々（国土交通省・福井県等）が講師を担当され、ドラゴンリバー交流会及び福井県防災士会のメンバーが、アドバイザーとして各テーブルにつき、サポートをさせて頂いた。





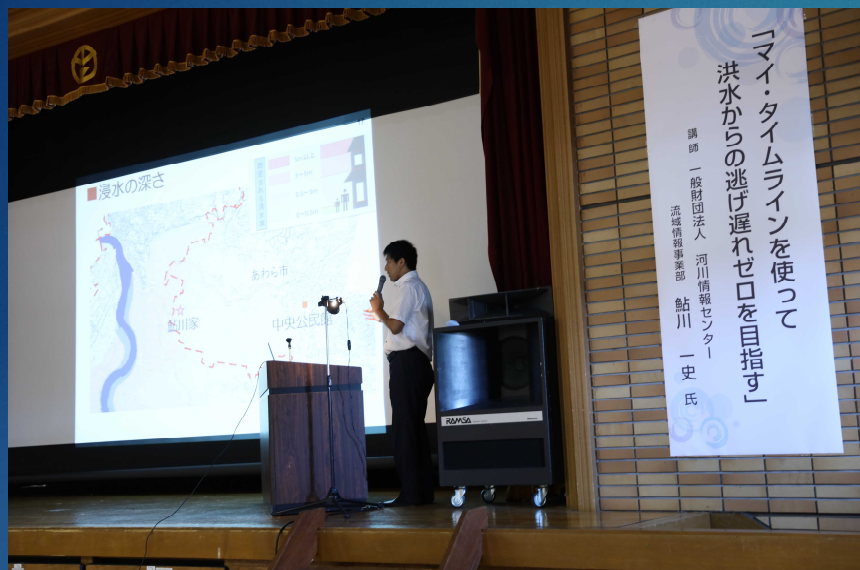
福井市清水北区における防災研修会  
(平成30年11月17日) 33名参加



敦賀市三島・津内地区におけるマイ・タイムライン検討会  
(平成30年12月8日) 45名参加



# あわら市 マイ・タイムライン講演会



(令和元年10月5日 (70名参加))

- 参加者の皆さんが講師として活躍するための養成講座の意味も含めて開催。
- はじめて、「逃げキッド」での簡易マイ・タイムラインの作り方を学んだ。
- 「逃げキッド」は、解りやすいと好評。
- 今後の普及方法ツールとして、方向性が見えた感じがした。

# 市内公民館へマイ・タイムラインの説明





# 昨年度は、福井市中藤島地区で講演会 森田地区・円山地区でマイ・タイムライン検討会



中藤島地区（令和2年11月20日）



円山地区（令和3年3月6日・14日）



森田地区（令和2年6月28日～10月10日）

# 活動の履歴

- 平成29年度 福井市で初の講演会  
福井市種池地区マイ・タイムライン検討会
- 平成30年度 福井市舞屋地区マイ・タイムライン検討会  
福井市清水防災研修会  
敦賀市三島地区・津内地区マイ・タイムライン検討会  
坂井市で講演会
- 令和元年度 あわら市で講演会 「逃げキッド」を使った簡易マイ・タイムライン紹介  
福井市内公民館（35館）へ「逃げキッド」を紹介
- 令和2年度 福井市森田地区 マイ・タイムライン5回シリーズ出前講座  
福井市中藤島地区で講演会（出前講座）  
福井市円山地区 マイ・タイムライン出前講座
- 令和3年度 福井市中藤島地区でマイ・タイムライン4回シリーズ出前講座の予定  
（コロナのため延期）



# 最後に

## 新しい動きとして

- 福井県防災士会・会員による防災リーダー育成講座において「逃げキッド」を使った講座を開催し好評。
- 社南地区では地区の協議会役員が中心となり、「逃げキッド検討会」を開催。

## 課題として

- 非常に熱心な地域がある一方、消極的な地域もある。新型コロナ禍も影響。

## 避難所のあり方

- 設置場所の安全性、誰もが避難したいと思う運営。（福祉・ペット避難所）

## 情報

- 高齢者社会や外国人居住者の増加が進む中、誰もが解りやすい情報が必要。

## 要援護者の避難

- 地域コミュニティにおける「共助の力」で避難。
- 地区・地域のタイムラインを考えることが重要になってくる。

国土交通省福井河川国道事務所・国土交通省下館河川事務所・  
福井地方気象台・福井県・河川情報センター・福井県防災士会等  
多くの方々のご協力を頂いたことに深く感謝する次第であります。

ご清聴ありがとうございました。